

第3章 子育ての現状と課題

子どもと家庭を取り巻く富良野市の環境の状況、次世代育成支援に関するニーズ調査、関係団体との懇談会等から、本市における子育て支援について、次のような課題があげられます。

第1節 子どもの状況と子育ての実態

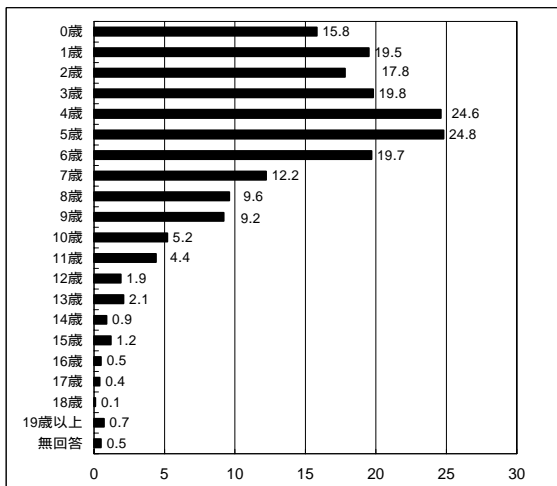
1 世帯の状況

就学前児の子どもを持つ家庭における子どもの年齢構成は、5歳児がいる世帯が最も多く、小学生の子どもを持つ家庭では8歳児がいる世帯が最も多くなっています。

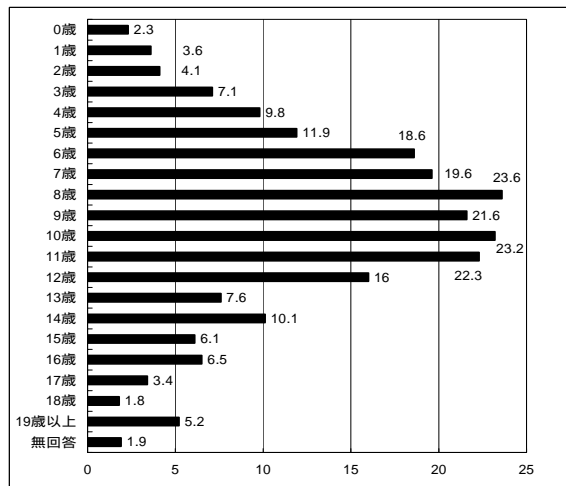
母親が子どもの身の回りの世話を主にしており、祖父母と同居している割合は約2割となっています。

就学前の子ども的人数は1人又は2人が多く、小学生では2人又は3人が多くなっています。

【就学前児のいる家庭の年齢構成】(%)



【小学生のいる家庭の年齢構成】(%)



【就学前児家庭の子ども的人数】

項目	数	%
1人	234	31.3
2人	327	43.8
3人	142	19.0
4人	20	2.7
5人	3	0.4
6人	1	0.1
無回答	20	2.7
計	747	100.0

【小学生家庭の子ども的人数】

項目	数	%
1人	103	12.4
2人	393	47.2
3人	254	30.5
4人	42	5.0
5人	3	0.4
6人	3	0.4
無回答	35	4.2
計	833	100.0

2 子育てに関する保護者の意識

子育てに関して不安や負担などを感じている人は約5%ですが、なんとなく感じている人を含めると、約半数が子育てに不安感や負担感を感じています。

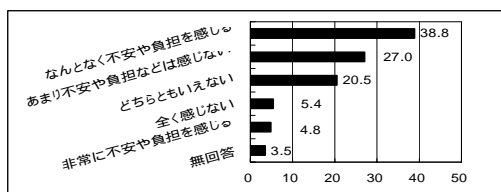
就学前の子どもを持つ家庭では、特に不安に思っていることや日常悩んでいることは、子どもを叱りすぎているような気がする事が最も多くなっています。さらに、食事や栄養、病気、発育・発達について気を使うことが多く、子育てのために仕事や自分のやりたい事が十分できないことが多くなっています。

また、小学生の子どもを持つ家庭では、教育や友達関係が多くなっています。

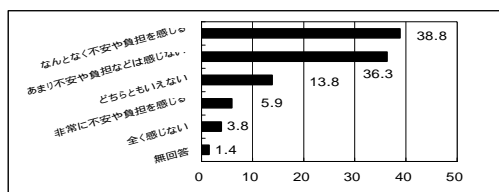
子どもに対してネグレクト(養育放棄)や虐待をしているのではないかと思うことが、就学前児の家庭では約16%、小学生の家庭では約11%となっています。

このようなときに、子育てに関する悩みや不安を相談する相手は、最も身近な配偶者が7割以上と最も多くなっています。また、友人・隣近所の人、地域の知人を相談相手とする人が6割以上を占めており、近親者だけではなく、身近で共通の情報を共有している人に相談することも多いようです。

【就学前児童保護者】 (%)



【小学生児童保護者】 (%)



【日常の悩み等 就学前児童保護者】

項目	数	%
子どもを叱りすぎているような気がする事	300	40.2
仕事や自分のやりたい事が十分できないこと	267	35.7
食事や栄養に関する事	246	32.9
病気や発育・発達に関する事	241	32.3
子どもの教育に関する事	208	27.8
子どもとの時間を十分に取れないこと	156	20.9
友だちつきあいに関する事	142	19.0
子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ないこと	107	14.3
子どもとの接し方に自信が持てないこと	105	14.1
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	100	13.4
地域の子育て支援サービスの内容や利用・申し込み方法がよくわからないこと	96	12.9
特になし	89	11.9
子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	63	8.4
子どもを虐待しているのではないかとと思うことがある	59	7.9
話し相手や相談相手がいないこと	58	7.8
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場など周りの見目が気になること	56	7.5
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	55	7.4
育児の方法がよくわからないこと	40	5.4
登園拒否、不登校等の問題について	15	2.0
その他	42	5.6
無回答	9	1.2
全体	747	

【日常の悩み等 小学生児童保護者】

項目	数	%
子どもの教育に関する事	303	36.4
友だちつきあいに関する事	282	33.9
子どもを叱りすぎているような気がする事	255	30.6
子どもとの時間を十分に取れないこと	196	23.5
病気や発育・発達に関する事	186	22.3
食事や栄養に関する事	164	19.7
特になし	146	17.5
仕事や自分のやりたい事が十分にできないこと	128	15.4
子どもとの接し方に自信が持てないこと	95	11.4
子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ないこと	91	10.9
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	66	7.9
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	54	6.5
子どもを虐待しているのではないかとと思うことがある	52	6.2
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場など周りの見目が気になること	51	6.1
地域の子育て支援サービスの内容や利用・申込方法がよくわからないこと	50	6.0
子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	40	4.8
子育ての方法がよくわからないこと	32	3.8
話し相手や相談相手がいないこと	31	3.7
登園拒否不登校等の問題について	26	3.1
その他	29	3.5
無回答	37	4.4
全体	833	

3 サークル活動

子育てに関するサークル活動など自主的な活動については、就学前児の保護者で約半数、小学生の保護者では6割以上が、現在も今後も参加するつもりがないとなっています。

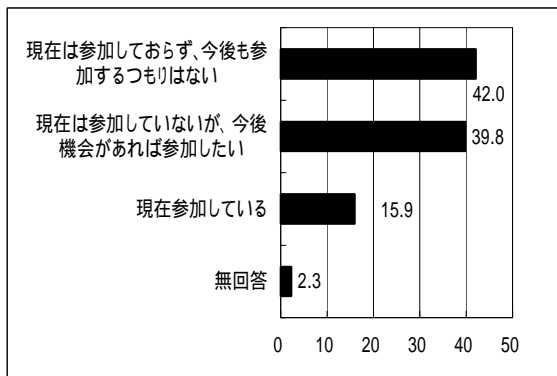
現在参加しているか、今後参加したいとしている人は、就学前児の保護者が小学生の保護者の2倍弱となっており、小さい子どものいる家庭の方が交流を求めていると思われる。

サークルを自主的に行っていく上で、行政に行ってほしい支援は、活動場所の提供が最も多くなっています。また、活動資金や活動の情報発信などの支援や就学前児の保護者では活動中の保育サービスも求められています。

幼児クラブについては、子育て支援センター、主任児童委員等が中心となり支援活動を行っていますが、今後はさらに自主性を尊重しながら活動場所の提供及び活動場所における設備の充実や運営のノウハウを示しながら、活動に対し支援することが課題であると思われます。

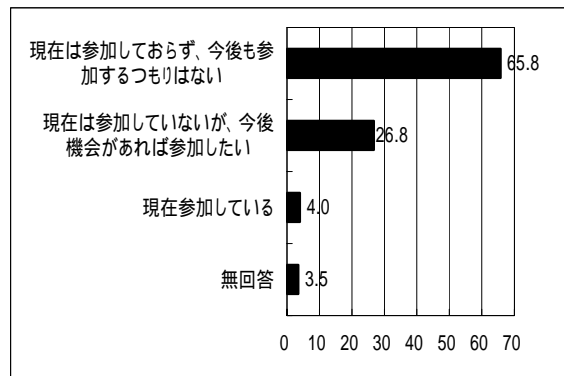
【サークル活動等への参加

就学前児童保護者】(%)



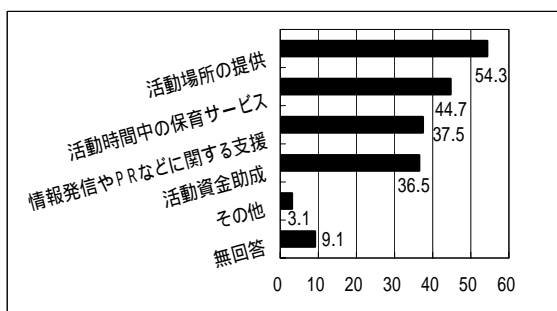
【サークル活動等への参加

小学生児童保護者】(%)



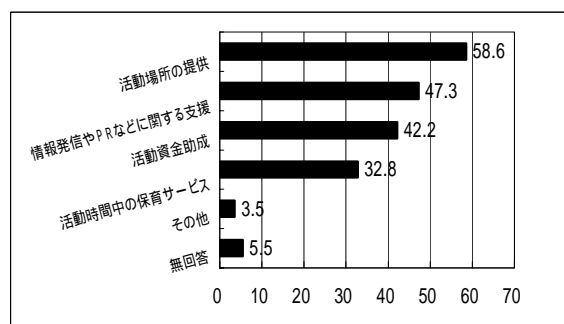
【行政に希望する支援内容

就学前児童保護者】(%)



【行政に希望する支援内容

小学生児童保護者】(%)



4 遊び場所

子どもの遊び場所については、雨の日に遊べる場所を求める要望が多くなっています。また、遊具などの種類が充実していない、冬の間、外で遊べる場所がないという不満があります。屋内で遊べる場所を新設することが困難な場合でも、児童館などの既存施設を有効活用するなどして場所の提供を確保することが課題とされます。

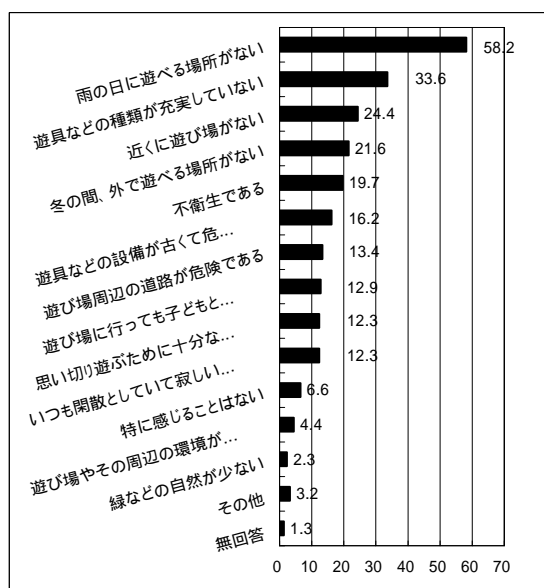
また、公園遊具の整備、充実も課題となっています。

【子どもの遊び場で日頃感じていること

項目	数	%
雨の日に遊べる場所がない	435	58.2
遊具などの種類が充実していない	251	33.6
近くに遊び場がない	182	24.4
冬の間、外で遊べる場所がない	161	21.6
不衛生である	147	19.7
遊具などの設備が古くて危険である	121	16.2
遊び場周辺の道路が危険である	100	13.4
遊び場に行っても子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がいない	96	12.9
思い切り遊ぶために十分な広さがない	92	12.3
いつも閑散としていて寂しい感じがある	92	12.3
特に感じることはない	49	6.6
遊び場やその周辺の環境が悪くて、安心して遊べない	33	4.4
緑などの自然が少ない	17	2.3
その他	24	3.2
無回答	10	1.3
全体	747	

就学前児童保護者】

(%)

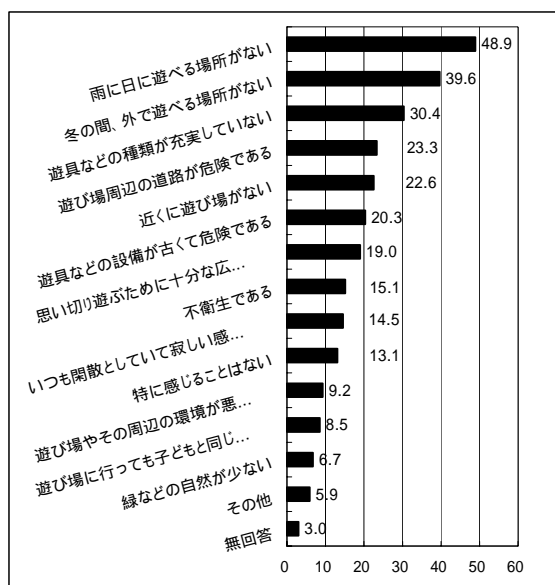


【子どもの遊び場で日頃感じていること

項目	数	%
雨に日に遊べる場所がない	407	48.9
冬の間、外で遊べる場所がない	330	39.6
遊具などの種類が充実していない	253	30.4
遊び場周辺の道路が危険である	194	23.3
近くに遊び場がない	188	22.6
遊具などの設備が古くて危険である	169	20.3
思い切り遊ぶために十分な広さがない	158	19.0
不衛生である	126	15.1
いつも閑散としていて寂しい感じがする	121	14.5
特に感じることはない	109	13.1
遊び場やその周辺の環境が悪くて、安心して遊べない	77	9.2
遊び場に行っても子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がいない	71	8.5
緑などの自然が少ない	56	6.7
その他	49	5.9
無回答	25	3.0
全体	833	

小学生児童保護者】

(%)



5 小学生の放課後の過ごし方

午後4時までは、学校以外は家に居たが最も多く、午後4時以降ではクラブ（スポーツ少年団）活動、地域活動が次に多くなっています。午後6時以降はほとんどが家におり、8割以上は家族などと過ごしていますが、家で子どもだけで過ごしている家庭も僅かですが見受けられます。

市としても、養育に関する相談や地域・児童民生委員などとの連携による協力体制の構築により子育て支援を行うことが課題と思われれます。

【放課後の子どもの過ごし方 小学生児童保護者】

時間帯	14～16時		16～18時		18～20時		20時以降	
	数	%	数	%	数	%	数	%
学校にいた	388	34.0	21	1.8	0	0.0	1	0.1
学童保育センターで過ごした	86	7.5	31	2.7	4	0.4	4	0.4
家で保護者や兄弟姉妹と過ごした	207	18.2	481	42.2	726	63.7	759	66.6
保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	42	3.7	121	10.6	229	20.1	240	21.1
ベビーシッターなどとすごした	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごした	43	3.8	53	4.6	11	1.0	9	0.8
家で一人で過ごした	28	2.5	44	3.9	4	0.4	2	0.2
友だちの家にいた	88	7.7	53	4.6	1	0.1	0	0.0
公園などで友だちと遊んでいた	91	8.0	29	2.5	0	0.0	0	0.0
児童館などの公共の施設にいた	31	2.7	10	0.9	0	0.0	0	0.0
クラブ活動や地域活動をしていた	28	2.5	136	11.9	39	3.4	2	0.2
学習塾や習い事に行っていた	41	3.6	90	7.9	24	2.1	1	0.1
その他	10	0.9	6	0.5	5	0.4	8	0.7
不明	57	5.0	65	5.7	97	8.5	114	10.0
全体	1,140	100.0	1,140	100.0	1,140	100.0	1,140	100.0

6 外出

子どもとの外出の際に困ることや困ったことは、子どもが小さいうちは、トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないことや、買い物や用事の合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がないことなど、子どもと外出するのに配慮された場所が少ないことが多くなっています。

公共スペースにおいてオムツ替えや授乳など育児の基本的な行為に関する施設の整備や安全に遊べるスペースの確保など、安心して親子で外出できるような環境をつくることが望まれています。

また、子どもが小学校に通うようになり、子どもの活動範囲が広がると、暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害に遭わないか心配であることや歩道や信号機のない通りが多く、安全に心配があることなど、安全面での対策が望まれています。

街灯や歩道などのハード面での整備と共に、地域が一体となった防犯体制整備が課題となっています。

【子どもとの外出で困ること等

就学前児童保護者】

項目	数	%
トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと	333	44.6
買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと	308	41.2
小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと	212	28.4
冬の間の移動が制限される	179	24.0
授乳する場所や必要な設備がないこと	166	22.2
交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと	133	17.8
歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている	126	16.9
歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること	125	16.7
暗い通りや見通しのきかない所が多く、犯罪の被害に遭わないか心配である	112	15.0
特に困ること・困ったことはない	57	7.6
その他	21	2.8
無回答	10	1.3
全体	747	

【子どもとの外出で困ること等

小学生児童保護者】

項目	数	%
暗い通りや見通しのきかない所が多く、犯罪の被害に合わないか心配であること	329	39.5
買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと	269	32.3
歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること	173	20.8
冬の間の移動が制限されること	148	17.8
特に困ること・困ったことはない	140	16.8
トイレが親子での利用に配慮されていないこと	120	14.4
小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと	99	11.9
交通機関や建物が子ども連れでの移動に配慮されていないこと	98	11.8
歩道の段差などが自転車の通行の妨げになっていること	93	11.2
その他	35	4.2
無回答	44	5.3
全体	833	

7 期待されている子育て支援策

市に期待する子育て支援策は、就学前児の保護者では、子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしいと約 3/4 が望んでおり、半数以上が保育所・幼稚園の費用を軽減してほしいと望んでいます。

小学生の保護者では、医療費の軽減をして欲しいと6割以上が望んでおり、約5割が子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しいとしています。

平成16年4月より児童手当の支給対象児が小学3年生まで拡大され、同年10月からは、乳幼児医療の受給対象年齢が通院・入院共に小学校就学前までに拡大されます。

子育てに関して各家庭での出費を軽減することが課題であると思われませんが、直接的な経済支援だけでなく、無駄な出費を抑えられるような工夫を提案することも考えられます。

【期待されている支援策

就学前児童保護者】

項目	数	%
子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい	543	72.7
子どもが医療機関にかかる費用負担を軽減して欲しい	477	63.9
認可保育所、私立保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい	386	51.7
子どもを気軽に預けられる場が欲しい	304	40.7
児童館など、子どもが安心して集まれる身近な場が欲しい	299	40.0
専業主婦など誰でも気軽に利用できるNPO等による保育サービスが欲しい	206	27.6
残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい	160	21.4
公営住宅における多子世帯の優先入居や広い部屋の割り当てなど住宅面の配慮が欲しい	157	21.0
子育てに困った時に相談したり情報が得られる場を作って欲しい	106	14.2
保育所を増やして欲しい	103	13.8
子育てについて学べる機会を作って欲しい	96	12.9
幼稚園を増やして欲しい	32	4.3
その他	23	3.1
無回答	21	2.8
全体	747	

【期待されている支援策

小学生児童保護者】

項目	数	%
子どもが医療機関にかかる費用負担を軽減して欲しい	546	65.5
子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい	442	53.1
児童館など、親子が安心して集まれる身近な場がほしい	309	37.1
認可保育所、私立保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい	190	22.8
残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい	185	22.2
公営住宅における多子世帯の優先入居や広い部屋の割り当てなど、住宅面の配慮が欲しい	148	17.8
子育てに困った時に相談したり情報が得られる場を作って欲しい	142	17.0
専業主婦など誰でも気軽に利用できるNPO等による保育サービスが欲しい	136	16.3
子育てについて学べる機会を作って欲しい	104	12.5
保育所を増やして欲しい	46	5.5
幼稚園を増やして欲しい	14	1.7
その他	46	5.5
無回答	52	6.2
全体	833	

第2節 子育て支援サービスの提供と利用の動向

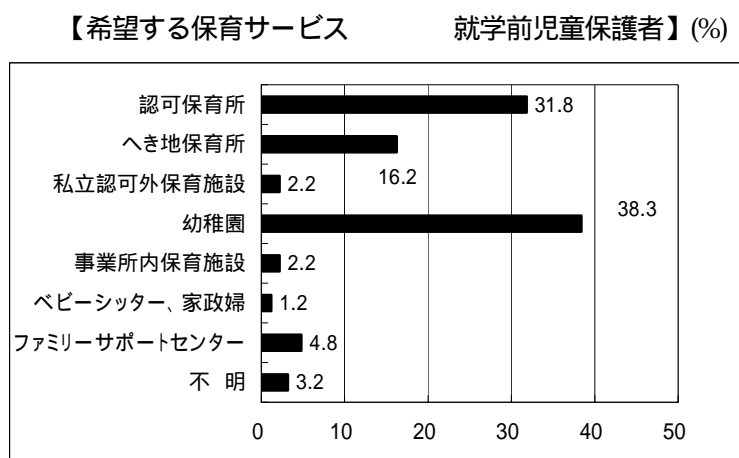
1 平日保育サービス

平日に保育サービスを利用したり、親族・知人に預けたりしている人は、複数回答のため約9割となっています。一方、希望として平日に保育サービスを利用したいという回答は、約6割となっています。

現状として79.8%が「保育所、幼稚園」に通い、その内44.1%が「幼稚園」に、16.8%が「認可保育所」、12.3%が「へき地保育所」に、また、6.6%が「私立認可外保育施設」（事業所内保育施設含む）に通っています。

保育サービスの利用希望がない家庭は32.6%となっており、低年齢児の家庭が多くなっています。

希望するサービスは、「幼稚園」が38.3%と最も多く、次いで「認可保育所」が31.8%となっています。さらに、へき地保育所、私立認可外保育施設、事業所内保育施設を加えると90.7%が保育サービスの施設での預かりを希望しています。



平日利用したい希望の日数は、45.4%が「週5日」としており、「週6日」の利用希望は33.8%となっています。

利用希望時間帯の開始時間は「8時台」が多くなっていますが、7時30分からの利用希望も出ています。また、終了時間は「18時台前半」までが多くなっています。

保育サービスの希望理由は、「現在就労している」が47.0%と最も多く、「就労したいと考えている」「就労予定がある」を含めると79.9%となり、約8割が「仕事」を理由としています。

以上のことにより、平日保育サービスを希望するほとんどの人は、就労により保育サ

ービス施設に預けることを希望しています。

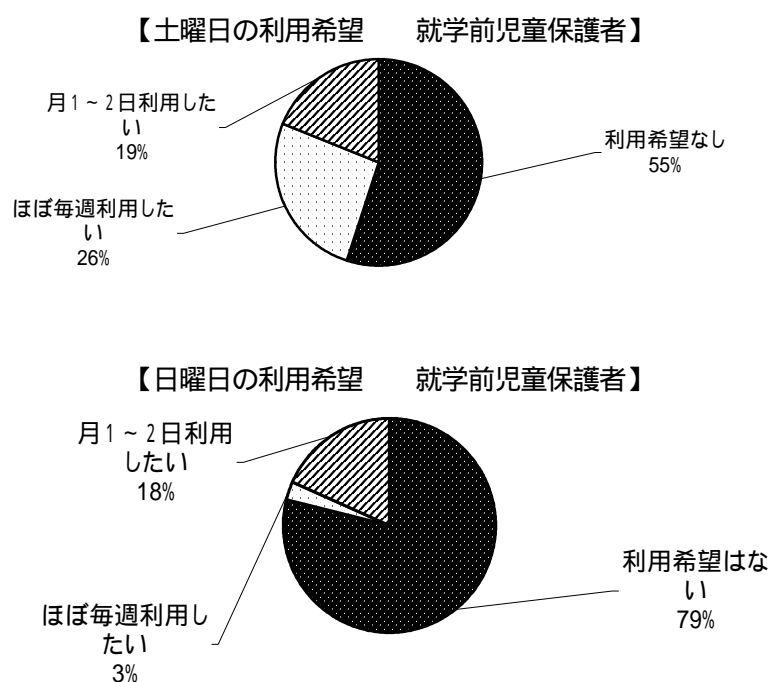
これからの認可保育所の運営は、今後の出生数や女性の就業率の増加、離婚件数の増加など、保育需要を適切に見極め、運営規模、保育時間などを検討していくことが今後の課題と思われます。

2 土・日曜日、祝日の保育サービス

土曜日の保育サービスは「ほぼ毎週利用したい」「月に1~2回利用したい」の合計が45.1%となっており、4割強が利用を希望しています。その中で、利用したい時間帯は、開始時間では「8時台前半」、終了時間では「17時台前半」が多くなっています。

日曜日、祝日の保育サービスの希望は、「ほぼ毎週利用したい」「月1~2回利用したい」の合計が21.1%となっています。これは、土曜日の保育サービスを希望する人の約半数となっています。その中で、利用したい時間帯は、土曜日の希望時間帯と同じとなっています。

認可保育所にあっては、土曜日も平日と同様に通常保育を行っており、今後も引き続き保育サービスを提供すべきと思われます。日曜日、祝日については、開所している施設が少ないため、保護者の就労状況に対応した保育需要を見極め、実施方法を検討していくことが必要だと思われます。



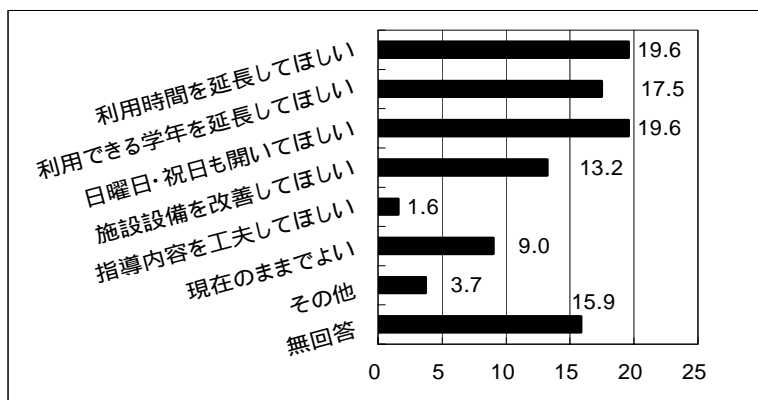
3 学童保育センター（放課後児童クラブ）

通っている学童保育センターに対する要望は、「利用時間を延長してほしい」「日曜日、祝日も開いて欲しい」が、それぞれ19.6%と最も多く、次いで「利用できる学年を延長してほしい」が17.5%となっています。

利用学年の延長は、「4年生」までが48.5%と最も多くなっていますが、富良野市の学童保育センターは全て児童館に併設しているため、自由来館児としての利用は可能となっています。

「時間延長」「日曜日、祝日開所」希望がそれぞれ約2割あることから、保護者の就労状況などを見極めながら対応について検討していくことが、必要だと思われます。

【学童保育センターに対する要望 小学生児童保護者】 (%)



【利用学年の延長希望 小学生児童保護者】

学年	4年生	5年生	6年生	不明	計
数	16	1	14	2	33
%	48.5	3.0	42.4	6.1	100.0

4 特別保育事業

1) 病児、病後児保育

就学前の子どもを持つ家庭の8割で、子どもが病気で保育施設を休まなければならなかったことがあり、その際の対処方法として、保護者が仕事を休んだが5割強となっています。このように、仕事を休んで対処することは、75.7%が困難であると回答しています。

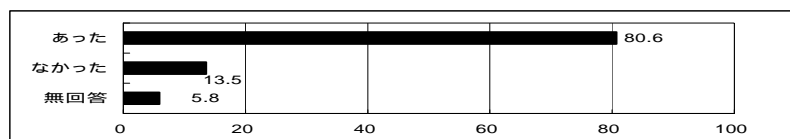
また、親族、知人に預けた人も2割以上いますが、そのうちの6割以上が対処について難しかったとしています。

日数的には5日以内で解決することが多いようですが、20日以上長期にわたる場合も見受けられます。

また、子どもが病気回復期で家族が面倒を見る事が困難な場合、医療機関との連携の下に看護師が預かるサービスでは、医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービスを希望する方が54.9%、保育所などの専用スペースでの預かりが17.1%、看護師などが自宅に来て子どもを見るサービスが11.4%となっています。

以上のことにより、子どもが病気になったとき及び病気回復期に安心して子どもを預けることができるように、医療面が整備された預かりサービスの提供が課題と思われます。

【病気で保育施設を休むことができましたか 就学前児童保護者】 (%)



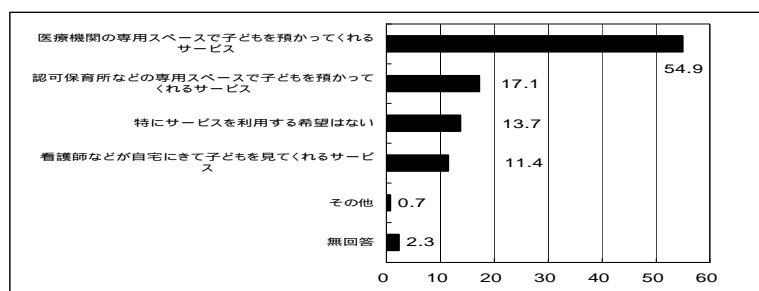
【保護者が仕事を休む場合の困難度】

項目	数	%
どちらかという困難	117	53.7
非常に困難	48	22.0
特に困難でもない	47	21.6
無回答	6	2.8
全体	218	100.0

【親族、知人に預けた場合の困難度】

項目	数	%
どちらかという困難	47	52.8
特に困難でもない	27	30.3
非常に困難	11	12.4
無回答	4	4.5
全体	89	100.0

【病後児保育の希望サービス 就学前児童保護者】 (%)



2) 緊急時の預かり

就学前の子どもを持つ約半数の家庭において、普段子どもの面倒を見ている方が、緊急の用事で日中面倒を見られなくなったことがあり、対処方法としては、4割以上の家庭で配偶者が面倒を見ています。

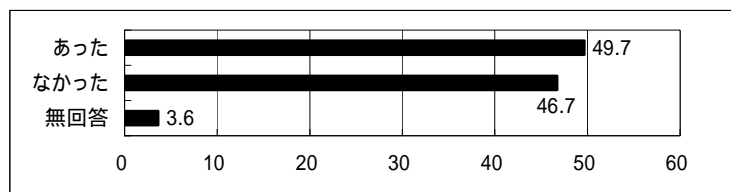
このように、配偶者が対処することは、6割以上が難しいことであったとしています。また、親族、知人に預けた家庭は約7割もいますが、6割以上が難しかったと回答しています。

日数については5日以内で解決することが多いようですが、3週間程度におよぶ場合もあります。

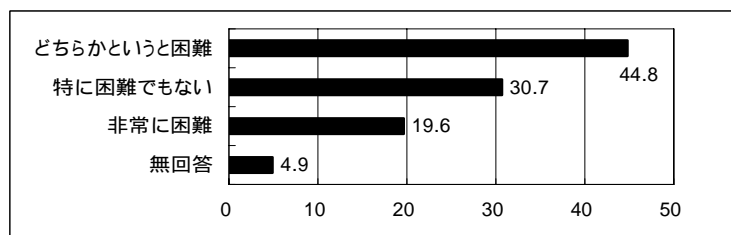
富良野市の保育所では、一時保育事業として出産時又は保護者の疾病などによる入院に限り預かりサービスを行っていますが、冠婚葬祭や家族の病気看護などの緊急の用事でも、気軽に安心して子どもを預けることができる保育サービスを提供することが課題と思われます。

【緊急の用事で子どもの面倒を見ることが

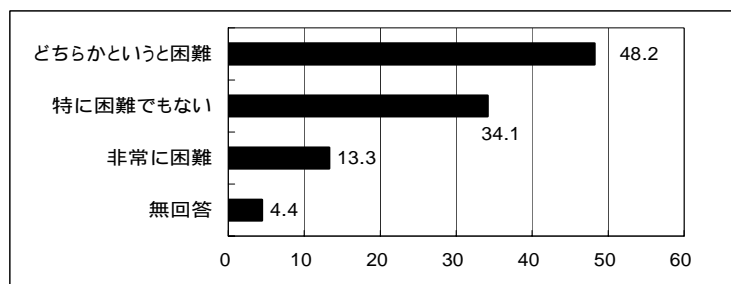
できなくなったことがあったか 就学前児童保護者】 (%)



【配偶者が面倒を見た場合の困難度 就学前児童保護者】 (%)



【親族、知人に預けた場合の困難度 就学前児童保護者】 (%)



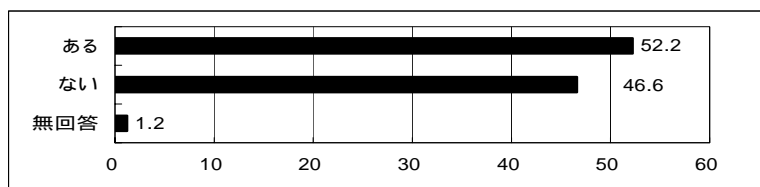
3) リフレッシュ

就学前の子どもを持つ保護者の半数以上はリフレッシュしたいと思っただけです。1ヶ月あたりの希望回数は「1回」と「2回」の合計が79.2%となっています。1回あたりの平均時間は「4～6時間まで」が46.2%と最も多くなっています。子どもを預ける場合に希望するサービスでは、72.8%が「認可保育所などの施設で子どもを預かってくれるサービス」と回答しています。

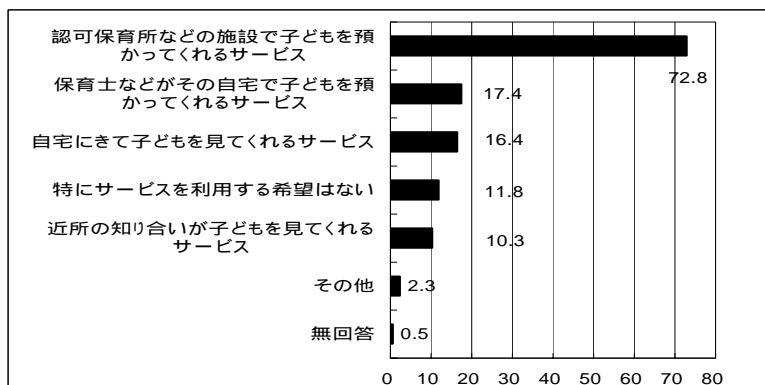
また、子どもの世話を主にしている方の身体の調子では、就学前、後共に約1割強の方が、どこか精神的、身体的に調子が悪いと感じています。

以上のことにより、仕事を理由としてではなく、保護者がリフレッシュしたい場合に、保育所などの施設において預けることができるサービスを提供することが課題と思われます。

【リフレッシュをしたいと思っただけですか 就学前児童保護者】 (%)



【リフレッシュ時の希望サービス 就学前児童保護者】 (%)



【世話をしている方の調子 就学前児童保護者】

項目	数	%
心身ともに快調	531	71.1
なんともいえない	95	12.7
身体の調子は良いが精神的に不調	55	7.4
精神的には良いが身体が不調	27	3.6
心身ともに調子が悪い	12	1.6
無回答	27	3.6
全体	747	100.0

【世話をしている方の調子 小学生児童保護者】

項目	数	%
心身ともに快調	600	72.0
何ともいえない	82	9.8
身体の調子は良いが精神的に不調	52	6.2
精神的には良いが身体が不調	26	3.1
心身ともに調子が悪い	26	3.1
無回答	47	5.6
全体	833	100.0

4) 乳児保育事業

現在、乳児保育事業は生後6ヶ月以上の乳児を対象とし、中央保育所のみで実施していますが、乳児保育の需要に対し、産休明けから受入れることが課題であり、麻町保育所での受入も検討する必要があります。

5) 障がい児保育事業

障がい児保育事業は、認可保育所、へき地保育所と幼稚園において、児童の発達状態により加配職員を配置し、母子通園センターと連携を図りながら実施しています。

出生数は減少しているものの、心身に何らかの障がいのある児童や障がいの疑いのある児童は微増の傾向にあります。集団活動を通じて発達を促すことが大切であり、保育所や幼稚園に入所を希望する保護者も増えています。

今後、障がい児保育充実のために、各保育所、幼稚園と母子通園センター及び関係機関との連携をさらに強化するとともに、障がい児保育に関する研修、学習機会の拡充が必要です。

5 幼稚園

富良野市では、平成16年度から構造改革特区により2歳児からの幼稚園就園が可能となりました。少子化で幼稚園も定数に満たない園もあり、2歳児からの入園も増えると思われます。また、預かり保育も午後6時まで実施をしており、利用者からみた限りでは、幼稚園と保育所の垣根がなくなっていると思われます。

幼稚園と保育所の連携が無い現状ですが、今後は、子育て支援の観点からも連携を図り、情報交換や子育てを支援する活動が必要だと思われます。

6 私立認可外保育施設

富良野市には私立の認可外保育施設は9施設が開設されています。

事業所内保育施設は3施設でそれぞれの事業所で働く保護者の乳幼児を預かり、残り6施設が一般乳幼児を受入れしています。一般乳幼児の対象施設は富良野市街地区に4施設で、鳥沼地区と西達布地区にそれぞれ1ヶ所となっています。

各施設とも入園児童の減少により運営に苦慮している状況にあり、ここ数年で3施設

が廃園をしています。運営に対し市費補助金を予算の範囲内で交付していますが、施設側からは利用者への補助や運営補助の増額希望が出されています。

また、施設行事等で児童の移動に際し市のマイクロバスなどを利用したい要望も出されています。

今後も、私立認可外保育所に対し、経営の安定化と保護者の経済的負担軽減を図るため支援が必要だと思われます。

7 子育て支援サービス

「児童館」は認知度、利用経験、利用意向いずれも高くなっており、今後も既存施設の整備充実が必要と思われます。

小学生は高学年になるにつれて「児童館」を利用する割合が減少するため、よく利用する公共施設は「図書館」(55.3%)が最も多く、次いで「公園」「スポーツセンター」の順となっています。

就学前児の家庭では、教育に関するサービス(家庭教育、教育相談、不登校相談)の認知度は低くなっています。今後利用したいサービスでは「子育て支援センター」が利用経験は低いですが、利用意向は高くなっています。

8 子育て支援の行政窓口

出産、育児に関する行政窓口(保健センター、保育所、子育て支援センター、児童家庭課など)の担当者の対応については、5人に1人が不満に思ったことがあると回答し、不満の内容は「対応が不親切」が最も多くなっています。

心のこもった行政サービスを行うことが基本ですので、職員の接遇改善に努める必要があります。

